

パブリックコメント用資料
(R4.3.1~3.31 実施)

第4次静岡市総合計画 「基本構想」・「基本計画」 骨子案



静岡市 企画局企画課

令和4年2月

【参考資料（別冊）】

- ・市民意識アンケート（R3.9~10 実施）結果
- ・第4次静岡市総合計画の策定に向けたデータ調査及び分析
- ・第3次静岡市総合計画 分野別計画の政策・施策評価結果

目 次

【1】序論

- (1) 総合計画について.....P 2
- (2) 計画の構成及び期間.....P 2
- (3) 策定体制.....P 3
- (4) 策定スケジュール.....P 3

【2】3次総の振り返り.....P 4 ~ 5

【3】基本構想.....P 6

【4】基本計画

- (1) 時代の潮流.....P 7
- (2) 人口フレーム.....P 8
- (3) 重点目標.....P 9
- (4) 横断的視点.....P 9
- (5) (仮)7つの柱.....P10
- (6) 分野別の取組.....P11

参考 第4次静岡市総合計画 構成案.....P12

参考 用語集.....P13

【1】序論

(1) 総合計画について

総合計画とは、地方自治体が総合的、計画的に行政運営を行っていくための最も基本となる計画です。長期的な視点に立って、まちの目指す姿を定め、その実現に向けた取組などを示す、いわばまちづくりの羅針盤の役割を担う計画であると言えます。

また、人口減少、少子高齢化等に伴い、地方自治体の財政状況が厳しさを増す中で、適正なマネジメントを行いながら、持続的な都市経営を進めていくための指針としての性格も持ち合わせています。

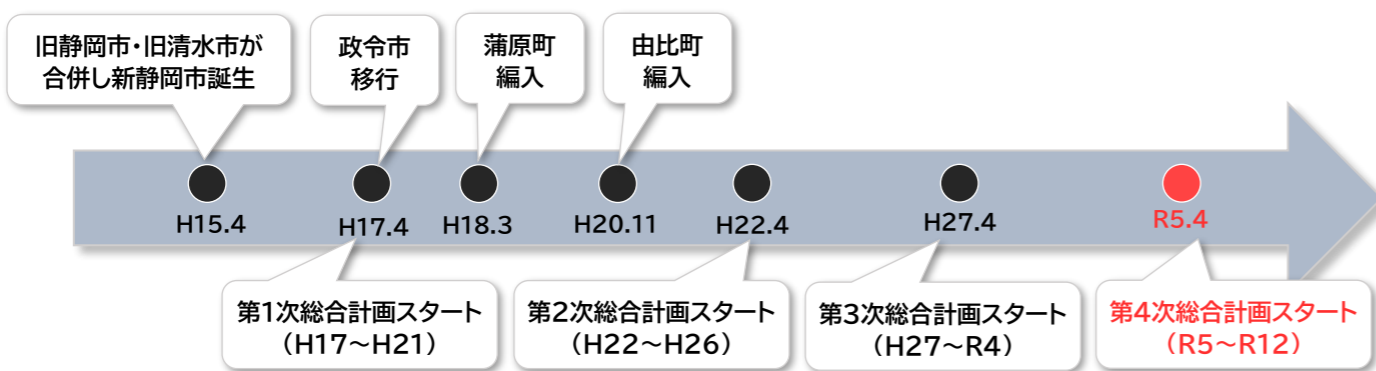
本市では、平成 17（2005）年の政令指定都市移行に合わせ、地方自治のあり方やまちづくりの方向性を示す「静岡市自治基本条例」を制定しました。この条例の規定に基づき、まちづくりを具体化させるための総合計画を策定し、市政運営を行っています。

【静岡市自治基本条例】

（総合計画の策定）

- 第 15 条 市は、この条例の目的及び理念に基づくまちづくりの具体化のため、基本構想、基本計画及び実施計画から構成される総合計画(以下「総合計画」という。)を策定しなければならない。
- 2 総合計画は、社会経済状況の変化及び新たな行政需要に対応できるよう常に検討を加えられなければならない。
- 3 各行政分野の計画は、総合計画に即して策定されなければならない。

【これまでの策定経過】



(2) 計画の構成及び期間

第4次静岡市総合計画（以下、「4次総」という。）は、基本構想、基本計画、実施計画の3層で構成します。

また、本市における各分野の個別計画は、4次総の内容に則して策定していきます。

【計画の構成】



基本構想

長期的に変わることのない、まちづくりの目標や目指す都市像を明らかにするものです。4次総では、概ね 2040 年を見据えて基本構想を定めます。

基本計画

基本構想を実現するために重点的に取り組む政策や、市政全般にわたる取組の体系を定め、その目的や指標などを明らかにするものです。4次総では、令和 12(2030)年度までの8年間を計画期間として定めます。

実施計画

財政シミュレーションとの整合を図りながら、基本計画の政策・施策を展開するための個別の事務事業を定めるものです。4次総では前期を4年(令和 5~8 年度)、後期を4年(令和 9~12 年度)として計画を定めます。なお実施計画は、社会経済情勢等の変化に対応するため、毎年度見直しを行います。

※4次総は、「まち・ひと・しごと創生法」に基づく地方版総合戦略と一体のものとして策定する

【計画の期間】

	R5 (2023)	R6 (2024)	R7 (2025)	R8 (2026)	R9 (2027)	R10 (2028)	R11 (2029)	R12 (2030)	...	R22 (2040)	
基本構想	概ね 2040 年を見据えて定める										
基本計画	8年間										
実施計画	4年間				4年間						

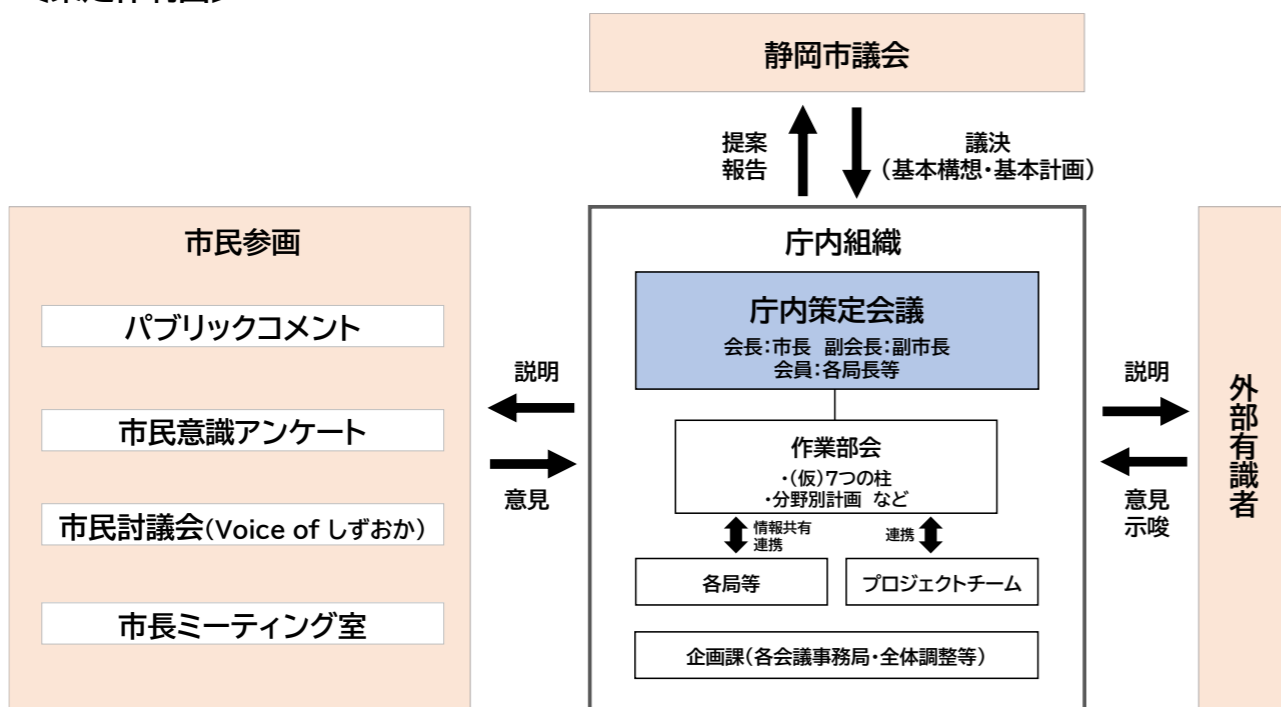
(3) 策定体制

令和3年5月に市長を会長とする庁内策定会議を設置し、副市長、各局長等を含めたメンバーにより、部局横断的な視点で策定に向けた議論を進めています。

さらに、パブリックコメント、市民意識アンケート、市民討議会（Voice of しずおか）、市長ミーティング室といった多様な手法により、幅広く市民の皆さんの声を聴くとともに、複数の有識者から意見、示唆を受けながら、今後計画を練り上げていきます。

なお、基本構想及び基本計画については、静岡市議会の議決を得て決定することとなるため、市議会との意見交換を密に行いながら作業を進めていきます。

〔策定体制図〕



市長ミーティング室(R3.10)



庁内作業部会(R3.11)

(4) 策定スケジュール

令和3年6月以降、庁内策定会議を中心として、策定に向けた作業を進めています。

これまで主に、4次総の基本的な方向性を示す基本構想や、基本計画の中核となる取組である「(仮)7つの柱」などについて検討を行い、令和4年2月に骨子案を作成しました。この骨子案について、今回パブリックコメント（1回目）を実施します。

1回目のパブリックコメントでいただいた意見などを踏まえて、その後も引き続き作業を進め、令和4年8月に実施予定のパブリックコメント（2回目）を経て、令和4年11月市議会定例会に、基本構想及び基本計画の策定に係る議案を提出する予定です。

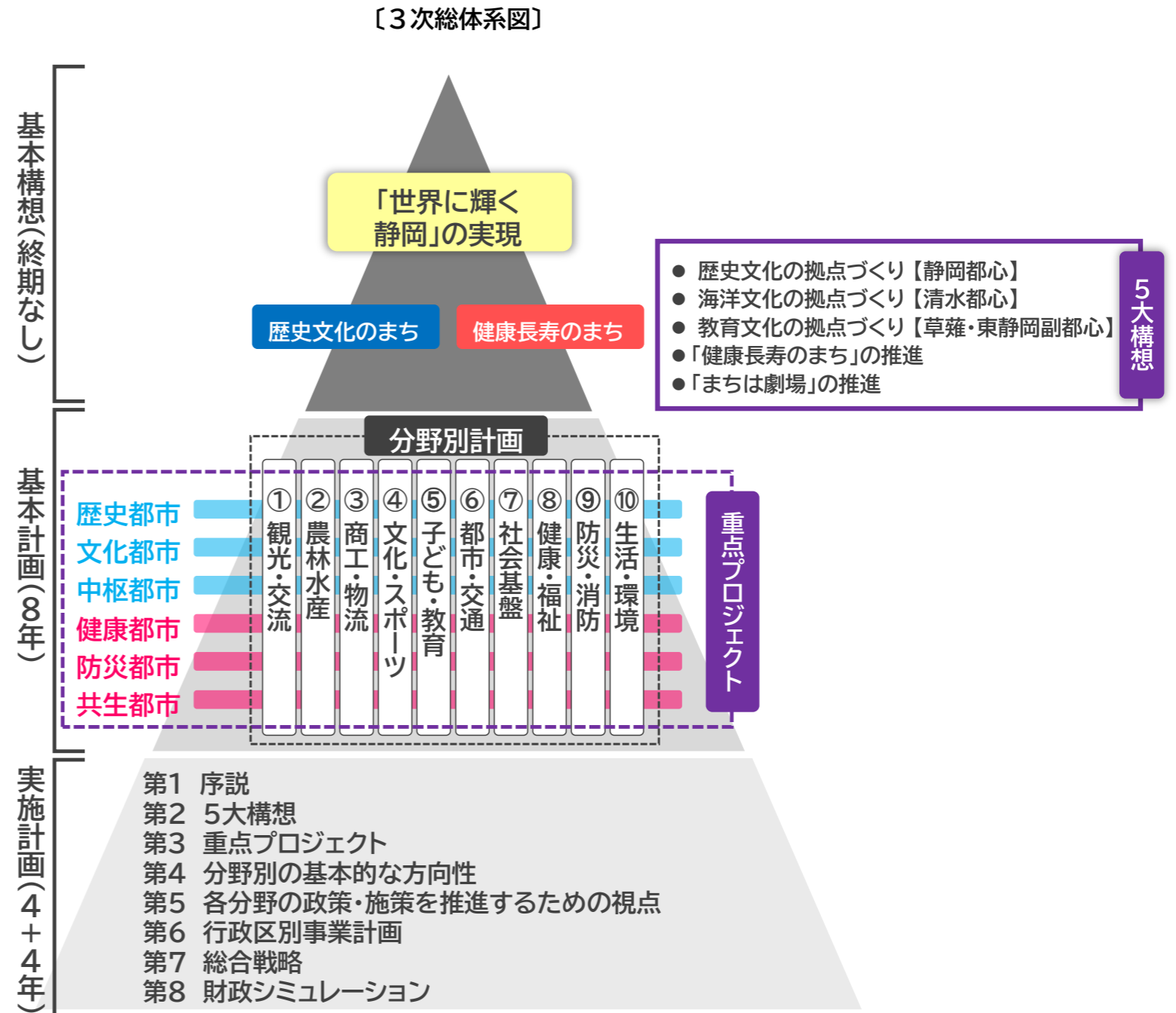
〔現時点での策定スケジュール〕

		R3(2021)年度											R4(2022)年度											
		6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	
庁内策定会議		①	②		③		④	⑤		⑥		⑦	⑧	⑨	⑩	⑪								
全体	基本構想	骨子案検討										骨子案作成	原案作成											
	基本計画	骨子案検討										骨子案作成	原案作成											
	実施計画	各作業部会実施										事業検討												
市民参画	パブリックコメント											実施												実施
	市民意識アンケート				実施																			
	市民討議会 (Voice of しずおか)												実施											
	市長ミーティング室						実施																	
外部有識者																								随時意見聴取

【2】3次総の振り返り

平成27（2015）年3月に策定した「第3次静岡市総合計画」（以下、「3次総」という。）は、平成27（2015）年度から令和4（2022）年度までの8年間の計画です。まちづくりの目標として、「世界に輝く静岡の実現」を、目指す都市像として「歴史文化のまち」と「健康長寿のまち」を掲げました。

そして、本市のオンリーワンの地域資源を活かし最優先に進める政策として、「世界に存在感を示す3つの拠点づくり（歴史文化、海洋文化、教育文化）」と、「生活の質を高める2つの仕組づくり（健康長寿のまち、まちは劇場）」の「5大構想」を位置付けるとともに、市政全般にわたる取組として、10の分野別の計画を定めました。



3次総では、「5大構想」を中心として、各分野における取組を進めてきました。

例として、「歴史文化の拠点づくり」では、平成27(2015)年の家康公四百年祭以降、駿府城公園周辺エリアの魅力をも高めるための取組を進め、令和4年度には、拠点の核となる「静岡市歴史博物館」のオープンや、大河ドラマ「どうする家康」の放送開始に合わせた大河ドラマ館の開館を予定しています。「健康長寿のまちの推進」では、「生涯活躍のまち静岡(CCRC)」を目指し、葵区中心市街地と駿河区役所周辺をモデル地区として、健康寿命の延伸や地域活性化につなげるためのまちづくりを進め、令和2年度には、認知症の方やその家族への総合的な支援を行う「かけこまち七間町」を開設しました。「海洋文化の拠点づくり」では、新型コロナウイルスの影響から一時停止していた「(仮)海洋・地球総合ミュージアム」の整備事業を令和4年度に再開し、清水都心の新たな賑わい拠点の形成に向け取り組んでいきます。

また、人口減少に立ち向かうための施策としては、平成27(2015)年度、東京都に「静岡市移住支援センター」を開設するなど早くから移住促進に積極的に取り組み、その結果、人口の将来推計に改善が見られています。さらに、子育て分野においては、保育定員の拡大などを進めてきた結果、平成30(2018)年度以降、4年連続での「待機児童ゼロ」を達成しています。

このように、様々な分野において「世界に輝く静岡の実現」のための取組を進めてきた一方で、3次総期間中に完了に至らなかった施策や、時代の潮流を踏まえて新たに取り組むべき課題などもあり、それらは新たに策定する4次総に位置付けていく必要があります。

	2015 (H27)	2016 (H28)	2017 (H29)	2018 (H30)	2019 (H31/R1)	2020 (R2)	2021 (R3)	2022(R4) ※予定
分野別の政策・施策等 主な出来事	<p>(観光・交流) ・食の魅力PR(ミラ/国際博覧会) ・家康公四百年祭</p>  <p>(子ども・教育) ・認定こども園化へ ・結婚支援事業しずおかエンジェルプロジェクト スタート</p> <p>(都市・交通) ・江川町交差点横断歩道設置</p> <p>(社会基盤) ・国道362号羽鳥・安西間4車線化 ・JR安倍川駅駅舎・東西通路リニューアル</p>  <p>(防災・消防) ・駿河消防新庁舎完成 ・緊急情報防災ラジオ販売</p>  <p>(視点) 都市経営 ・東京都有楽町に静岡市移住支援センター開設</p>	<p>(観光・交流) ・第18回日本スペインシンポジウム開催</p> <p>(農林水産) ・桜えびの人気急上昇 ・「お茶」国内外の販路拡大に向けたプロモーション</p> <p>(商工・物流) ・新幹線通学費貸与事業開始</p>  <p>(文化・スポーツ) ・「新幹線」という手があった!</p>  <p>「新幹線通学費貸与事業」平成28年4月1日スタート!! 「まちは劇場」プロジェクト始動</p>  <p>・駿府城跡天守台調査開始</p> <p>(子ども・教育) ・ママケアデイサービス開始</p> <p>(社会基盤) ・JR草薙駅リニューアル</p>  <p>(視点) 都市経営 ・中部5市2町観光地域づくり法人「するが企画観光局」始動</p>	<p>(観光・交流) ・梅ヶ島温泉郷国民保養温泉地指定 ・葵舟の試験運航 ・清水港に年間最多の客船帆船寄港</p>  <p>(農林水産) ・マッサーロ氏が初代静岡市お茶大使就任</p> <p>(商工・物流) ・プレミアムフライデー開始</p> <p>(文化・スポーツ) ・東静岡アート&スポーツ/ヒロバ グランドオープン ・朝鮮通信使「世界の記憶」登録</p>  <p>(子ども・教育) ・静岡型小中一貫教育準備開始 ・婚新生活スマイル補助金開始</p> <p>(都市・交通) ・大谷・小鹿地区まちづくり開始</p> <p>(生活・環境) ・水素ステーション静岡運用開始 ・新清水斎場供用開始</p> <p>(視点) 都市経営 ・静岡県中部5市2町での、しずおか中部連携中枢都市圏始動</p>	<p>(観光・交流) ・カンヌ市と「政策研究に関する覚書」締結 ・日本平夢テラスオープン</p>  <p>(農林水産) ・「水わさびの伝統栽培」世界農業遺産認定</p> <p>(文化・スポーツ) ・豊臣期の天守・金箔瓦出土</p> <p>(子ども・教育) ・待機児童ゼロ達成</p>  <p>(社会基盤) ・県道 三ツ峰落合線にトンネル新設決定 ・国道150号中島高架橋開通、静岡BP4車線化</p> <p>(健康・福祉) ・地域福祉共生センターみなくるオープン</p>  <p>(防災・消防) ・港北消防署完成</p> <p>(視点) 都市経営 ・SDGs未来都市・ハブ都市選定 ・TOKYOガールズコレクション開催 ・しずおか中部イベントニュース「GOTO」創刊</p>	<p>(観光・交流) ・今川義元公生誕500年祭 ・清水港開港120周年</p>  <p>(文化・スポーツ) ・みほしるべ開館</p>  <p>・歴史博物館建設地に戦国末期の道と石垣発見 ・日本平動物園50周年</p> <p>(子ども・教育) ・2年連続待機児童ゼロ ・小中学校で全員給食開始</p> <p>(都市・交通) ・相乗りタクシー実験開始(MaaS)</p> <p>(社会基盤) ・日本平久能山スマートIC開通 ・桜橋の架け替え工事開始</p>  <p>(健康・福祉) ・シニア向け就労相談窓口「NEXTワークしずおか」オープン</p> <p>(視点) 市民自治 ・静岡市多文化共生総合相談センターオープン</p>	<p>(観光・交流) ・静岡市歴史博物館 着工</p>  <p>・「弥次さん喜多さん駿州の旅」日本遺産に認定</p> <p>(子ども・教育) ・3年連続待機児童ゼロ</p> <p>(都市・交通) ・駿府ホリノテラス完成 ・シェアビル事業「PULCLE」開始</p>  <p>(健康・福祉) ・認知症ケア推進センター「かけこまち七間町」開設</p>  <p>(視点) コロナ対策 ・生命(いのち)と生活(くらし)を守る「2つのLife」</p>  <p>・コロナ猛威、初の緊急事態宣言 ・東京五輪1年延期 ・九州で豪雨、死者多数 ・「鬼滅の刃」大ヒット ・広がる新しい日常 ・レジ袋有料化スタート ・菅首相が2050年カーボンニュートラル宣言 ・あおり運転罪創設</p>	<p>(観光・交流) ・葵舟の本格運航開始</p>  <p>(文化・スポーツ) ・東京2020オリンピック・パラリンピック 共生ホストタウン</p> <p>(子ども・教育) ・4年連続待機児童ゼロ</p> <p>(都市・交通) ・あさはた緑地交流広場オープン ・中部横断自動車道静岡-山梨間の全線開通</p>  <p>(健康・福祉) ・地域・多世代交流型住宅コリアン静岡南八幡オープン</p>  <p>(こども・教育) ・中央図書館リニューアル</p> <p>(生活・環境) ・2050年温室効果ガス排出実質ゼロに向けた検討の開始</p>	<p>・静岡市歴史博物館オープン (開館予定:2022年度)</p>  <p>・大河ドラマ館の開館 (開館予定:2022年度)</p>  <p>イメージ:東京都北区大河ドラマ館(青天を衝け)</p> <p>・静岡市民文化会館の再整備へ (開館予定:2026年度)</p>  <p>・(仮称)海洋・地球総合ミュージアムの整備 (開館目標:2025年度)</p> 
	時事	<p>・安全保障関連法が成立 ・TPP交渉が大筋合意 ・川内原発が再稼働 ・戦後70年で安倍首相談話 ・日本人科学者2人ノーベル賞 ・ラグビーW杯で歴史的勝利 ・国連サミットでSDGsが採択 ・マイナンバー法施行</p>	<p>・天皇陛下、退位の意向示唆 ・熊本地震 ・米大統領、歴史的な広島訪問 ・安倍首相、真珠湾慰霊へ ・消費増税再延期 ・日露、北方四島共同経済活動 ・夏季リオ五輪過去最多41メダル ・エスパルス1年でJ1昇格</p>	<p>・天皇退位、2019年4月末に「共謀罪」法が成立 ・九州北部豪雨 死者等41名 ・将棋の藤井棋士が29連勝 ・電通に有罪、働き方改革へ ・日露、北方四島共同経済活動 ・国連、核禁止条約採択 ・笑点司会者が春風亭昇太に</p>	<p>・オウム松本元死刑囚ら刑執行 ・西日本豪雨、北海道地震 ・安倍首相「2島先行返還」へ舵 ・冬季平昌五輪で過去最多13メダル ・働き方改革、外国人就労関連法 ・日銀が政策修正、金利上昇容認 ・「18歳成人」改正民法成立 ・さくらももこ氏死去</p>	<p>・元号が令和に改元 ・消費税10%に、軽減税率導入 ・台風・豪雨で甚大被害 ・ラグビーW杯で列島熱狂 ・首里城火災、正殿など消失 ・東京池袋高齢ドライバー事故 ・探査船はやぶさ2リュウグウへ ・静岡学園全国高校サッカー優勝</p>	<p>・新型コロナワクチン接種開始 ・熱海市土石流発生 ・東京2020オリンピック、パラリンピックの開催 ・岸田内閣発足 ・デジタル庁発足 ・エンゼルス大谷選手二刀流でMVP ・オミクロン株の流行</p>	

4次総へ継承し、更なるまちの発展を図っていきます

※3次総での取組の実績は、その他参考資料「3次総期間における政策・施策評価の結果」も参照してください。

【3】基本構想

基本構想は、将来を展望し、長期的に変わることのないまちづくりの目標や目指す都市像を明らかにするとともに、その実現に向けた方向性を示すものです。

4次総では、3次総の理念を継承し、引き続き「世界に輝く静岡の実現」をまちづくりの目標とします。また、基本構想は概ね2040年頃を見据えたものとして定めます。

なお、具体的な取組事項や指標などは、基本計画で示していきます。

〔3次総と4次総の比較〕

	3次総	4次総(案)
構想の期間	終期なし	終期なし(ただし概ね2040年頃を見据える)
まちづくりの目標	「世界に輝く静岡」の実現	「世界に輝く静岡」の実現
構成	1 まちづくりの目標	1 策定の趣旨
	2 目指す都市像 (1)「歴史文化のまち」づくり (2)「健康長寿のまち」づくり	2 まちづくりの目標 3 まちづくりの目標を達成するために目指す都市像 (1)静岡市が擁する地域資源を磨き、輝かせ、 世界から注目され、人々が集まるまち (2)静岡市に暮らす市民一人ひとりが、輝いて、 自分らしい人生を謳歌できるまち
	3 市政のさらなる展開 (1)「創造する力」による「都市の発展」 (2)「つながる力」による「暮らしの充実」	
	4 基本計画の策定	4 目指す都市像の実現に向けた取組

〔静岡市基本構想案〕

1 策定の趣旨

時代は今、かつてないほどの目まぐるしい速さで変化を続けています。

世界情勢は刻々と変わり、地球規模での気候変動を始めとする環境問題や、我が国の人口減少、少子高齢化は、深刻さを増しています。こうした変化に対応するため、様々な科学技術の発展が進み、私たちの生活や働き方を大きく変容させています。この先も、世の中で起こる変化に対して、私たちは柔軟かつ迅速に対応していかなければなりません。

しかし一方で、どれだけ技術が進歩し、社会環境が変化したとしても、私たちが内面に秘める本質や人間らしさを求める思いは変わることはありません。

私たちは今、形あるものに価値が置かれ、その豊かさが重視された成長・拡大の時代を抜け、情報や体験、心の豊かさといった新たな価値観のもと、個人の幸せを追求する成熟・持続可能の時代にいます。

こうした時代にあって、静岡市が今後、市民のためにどのようなまちを目指すのか。静岡市の未来を切り拓く指針として、基本構想を定めます。

2 まちづくりの目標

静岡市は、静岡県のほぼ中央に位置し、北に標高3,000m級の南アルプスの壮大な山々が連なり、南に水深2,500mの日本一深い駿河湾が広がる、類い稀な自然を有しています。一年を通じた温暖な気候と豊富な日照時間をもたらす住みやすい生活環境の下、長い歴史において、先人たちにより多彩な文化が培われてきました。

古くは登呂遺跡に代表される弥生時代から、今川文化が開いた室町・戦国時代を経て、大御所徳川家康公の時代には駿府城が築かれました。また、東海道二峠六宿が東西交通の要衝として発達し、現在も地域の核となっています。このような長い歴史と地勢的な利点から、多くの人が行き交い、多様な産業が育まれてきました。

こうした歴史や産業を背景に、“商都”として栄えてきた静岡都心、特定重要港湾の清水港を擁する“港湾都市”である清水都心、教育機関が集積する草薙・東静岡副都心の各拠点の核となり、高度な都市機能を備えた静岡県中部の中核都市として発展を遂げています。

このように、静岡市は都心部と海、山、川などの豊かな自然、歴史、産業、文化がバランス良く融合した、世界的にも恵まれた都市環境を有し、新しい時代を切り拓く要素を豊富に備えています。

これから静岡市が目指すのは、人口や産業が過度に集積し、時間の流れが急速に進む大都市ではなく、一定の経済力を有しながら固有の歴史や文化、自然と調和した、人々が人生を謳歌できる持続可能な都市です。

市民一人ひとりが幸せに満ちた人生を送り、静岡市の地域資源（静岡らしさ）を最大限に活かすことで世界に存在感を示す、すなわち『世界に輝く静岡』の実現をまちづくりの目標に掲げます。

3 まちづくりの目標を達成するために目指す都市像

『世界に輝く静岡』の実現を達成するために、以下の2つの都市像を目指します。

～静岡市が擁する地域資源を磨き、輝かせ、世界から注目され、人々が集まるまち～

～静岡市に暮らす市民一人ひとりが、輝いて、自分らしい人生を謳歌できるまち～

4 目指す都市像の実現に向けた取組

目指す都市像を実現するために、この基本構想に則した基本計画を策定し、政策・施策を円滑かつ着実に推進していきます。

推進にあたっては、市民、企業、行政が互いに手を取り合い、あらゆる場面で活躍できるシチズンシップに富んだ人材を育て、新たな価値を生み出しながら取り組んでいきます。

加えて、国籍や性別、障がいの有無など、人々の多様性を尊重しつつ、私たちが暮らす地球の豊かな環境や生態系を守りながら、経済、社会、環境が調和したまちづくりを進めます。

そして、静岡市を訪れ静岡市と関わる人々の輪を広げ、まちの活力を高めていきます。

【4】基本計画

基本計画は、基本構想で掲げる『世界に輝く静岡』の実現のために取り組む政策・施策の目的や目標を定め、その体系などを明らかにするものです。4次総では令和12（2030）年度までの8年間を計画期間として、基本計画を定めます。

（1）時代の潮流

近年、経済、社会、環境など多方面において、世界規模の大きな変化が生じています。基本計画の策定にあたっては、こうした変化やその影響を認識しながら、時代に即した取組となるよう、検討を進めていく必要があります。

①人口減少・少子高齢化

国の人口は2010年をピークに減少を始め、同時に急速な高齢化が進行しています。人口減少・少子高齢化は、地域活力の低下や経済活動の停滞などの影響を及ぼすことが懸念されます。

本市の人口は、国よりも20年早い1990年から減少を続けており、2020年の国勢調査では70万人を下回りました。移住促進など、人口の社会増のための取組を進めているものの、今後も更なる人口減少・少子高齢化は避けられないと見込まれます。

②激甚化する自然災害の懸念

近年、地球規模の気候変動に起因する豪雨災害などが頻発し、日本国内のみならず、世界各地で甚大な被害が生じています。

古くから南海トラフ地震による被害が懸念されている本市は、地震をはじめとした災害対策について先進的に取組を進めてきているものの、今後、更なる異常気象の増加や、それに伴う激甚災害が発生する可能性があることから、一層の対策強化が必要となっています。

③価値観・ライフスタイルの多様化

社会構造の変化、科学技術の進化などに伴い、人々の「豊かさ」の価値観や、求めるライフスタイルが多様化しています。また、「人生100年時代」と言われる中、65歳を越えても、生き生きと働きながら暮らすことを望む高齢者が増加しています。

本市も、こうした多様な市民ニーズに応えるための、きめ細やかな取組が求められています。

④公共施設のアセットマネジメント

全国的に多くの公共施設の老朽化が進み、更新の時期を迎えています。社会保障などの義務的経費が今後も増加する中、安定的な公共施設の老朽化対策を進めることが必要となっています。

人口減少、少子高齢化を見据え、単なる建替えのみならず、統廃合や廃止、民間活用などを視野に入れた、持続的なアセットマネジメントが求められています。

⑤多文化共生の推進

外国籍の住民の増加と定住化が進み、今後もその傾向は続くことが見込まれています。そこで、地域に暮らす人々が多様な価値観を認め合い、共に地域づくりをしていくことが求められています。

本市で生活するすべての人々が、互いの文化的違いを尊重し、相互理解と思いやりにあふれ、多様性を活かしたまちの実現が図られるよう、多文化共生のまちづくりを進めていく必要があります。

⑥SDGsの推進

地球温暖化に伴う異常気象や自然破壊、貧困、格差、差別など、世界は未だ深刻な問題を数多く抱えています。これらに対応するため、2015年の国連サミットにおいて全会一致で採択されたSDGsは、日本においても多くの企業や個人の間で認知され、取組が進められています。

SDGsの基本理念である「誰一人取り残さない」は、本市が目指す『世界に輝く静岡』の実現の考えにも通ずるものであり、持続的な市政運営を進めるため、まちづくりにSDGsの視点を取り入れていくことが求められています。

⑦新型コロナウイルスの感染拡大

2019年12月に中国で初めて確認された新型コロナウイルスは、瞬く間に世界中に広がり、多くの命を奪う大流行となりました。また同時に、人々のライフスタイル、ビジネススタイルを大きく変える契機ともなっています。

本市においても、「2つのLife（生命を守り、生活を取り戻す）」のスローガンのもと対策を講じており、まずは一日も早い感染終息を目指し、今後も取り組んでいく必要があります。

⑧デジタル技術の進展

特に新型コロナウイルスの感染拡大以降、IoT、AI、次世代通信といった、社会におけるデジタル技術の進展が加速しています。

一方で、日本国内の行政活動におけるデジタル化の遅れなどの課題が顕在化しており、国は2021年9月にデジタル庁を発足させるなど、早急な対策を進めています。

本市も、国と歩調を合わせ、窓口手続などの行政のデジタル化、デジタルを活用したまちづくり、デジタル人材の確保などの取組を一体的に進めていくことが求められています。

⑨脱炭素社会の実現に向けた取組の加速

近年、気候変動に伴う自然災害が増加、激甚化する中、世界各国がパリ協定に基づき、様々な地球温暖化対策に取り組んでいます。

本市も2020年12月、2050年の温室効果ガス排出実質ゼロに向けて取り組んでいくことを静岡市議会において表明しました。今後、経済界や市民と連携し、具体的な取組を加速していくことが求められています。

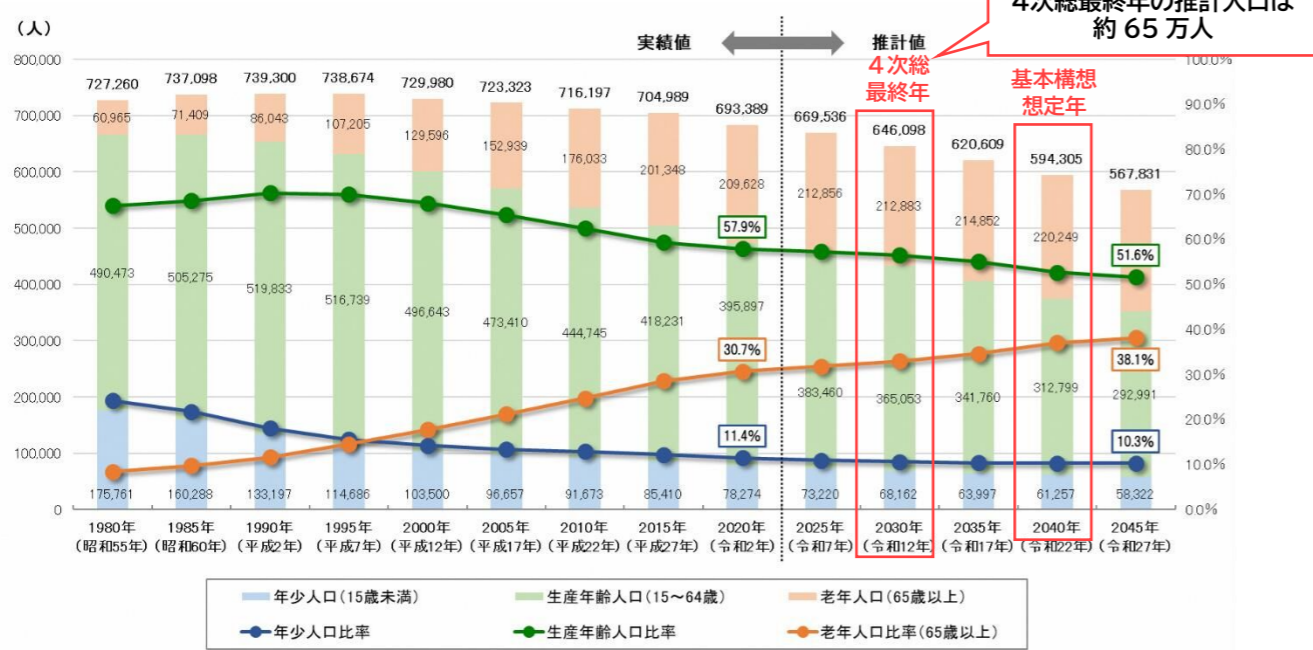
(2) 人口フレーム

人口は、都市活力の源泉の一つであり、基本計画の策定にあたっては、将来の人口フレーム（人口規模）を想定しつつ検討していく必要があります。

国全体の急速な人口減少・少子高齢化が続く中、本市の人口は、平成 29（2017）年の住民基本台帳登録人口、令和 2（2020）年の国勢調査人口で 70 万人を下回りました。さらに「国立社会保障・人口問題研究所（社人研）」の 2018 年の推計では、4 次総最終期である令和 12（2030）年の本市の人口は 646,098 人となるなど、長期的な人口減少は避けられないと想定されています。（図 1、2）

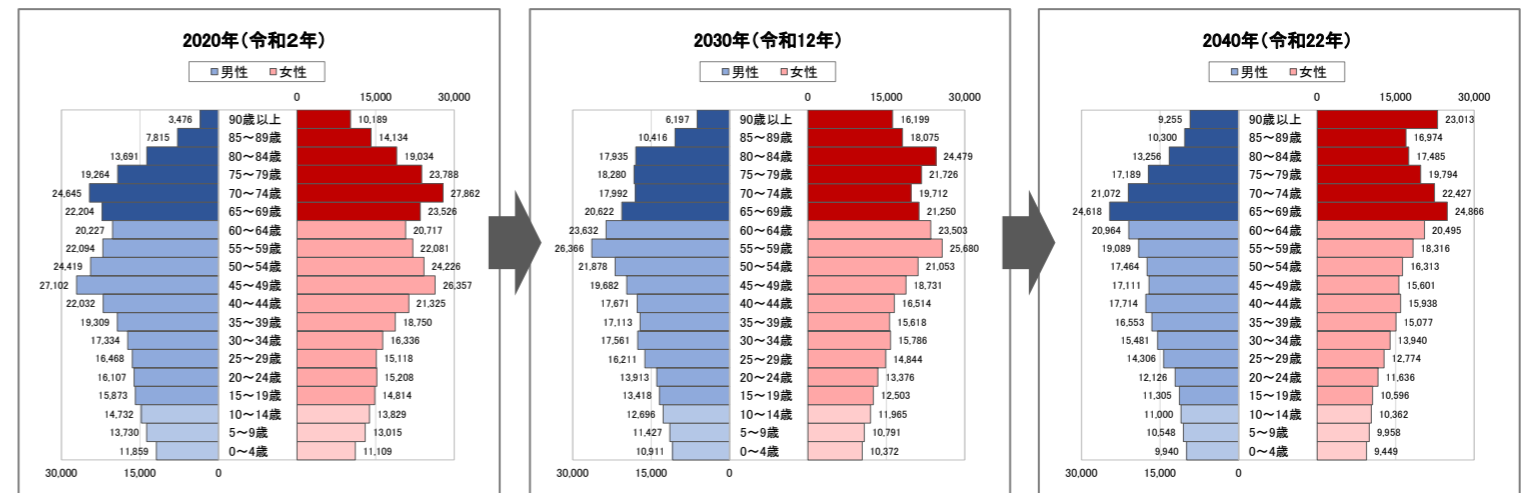
一方、3 次総期間において、主に首都圏からの移住促進をはじめとした地方創生の取組などを進めてきた結果、平成 29 年と令和 2 年には社会増減がプラスとなりました。また、社人研の人口推計は、2013 年時点と比較して 2018 年の推計が大幅に上方修正されるなどの成果が出ています。（図 3、4）

〔図 1 静岡市の将来人口の予測〕



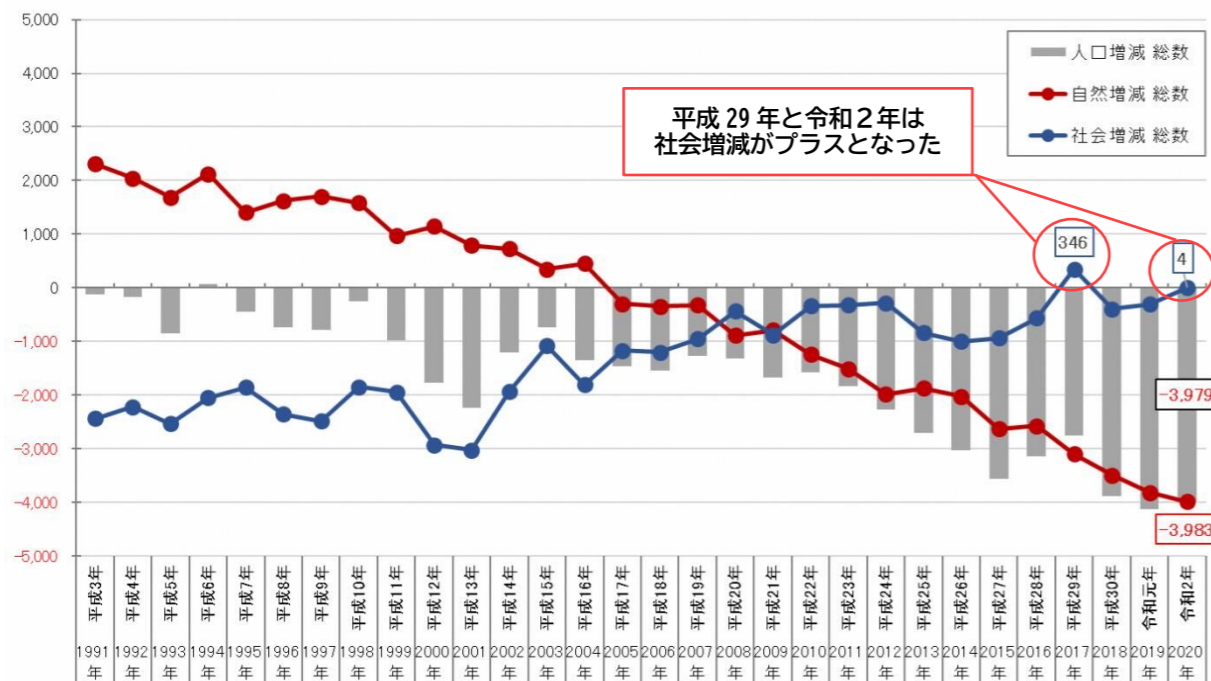
【出典】各年国勢調査（総務省）、日本の地域別将来人口推計（国立社会保障・人口問題研究所）

〔図 2 静岡市の将来人口の予測〕



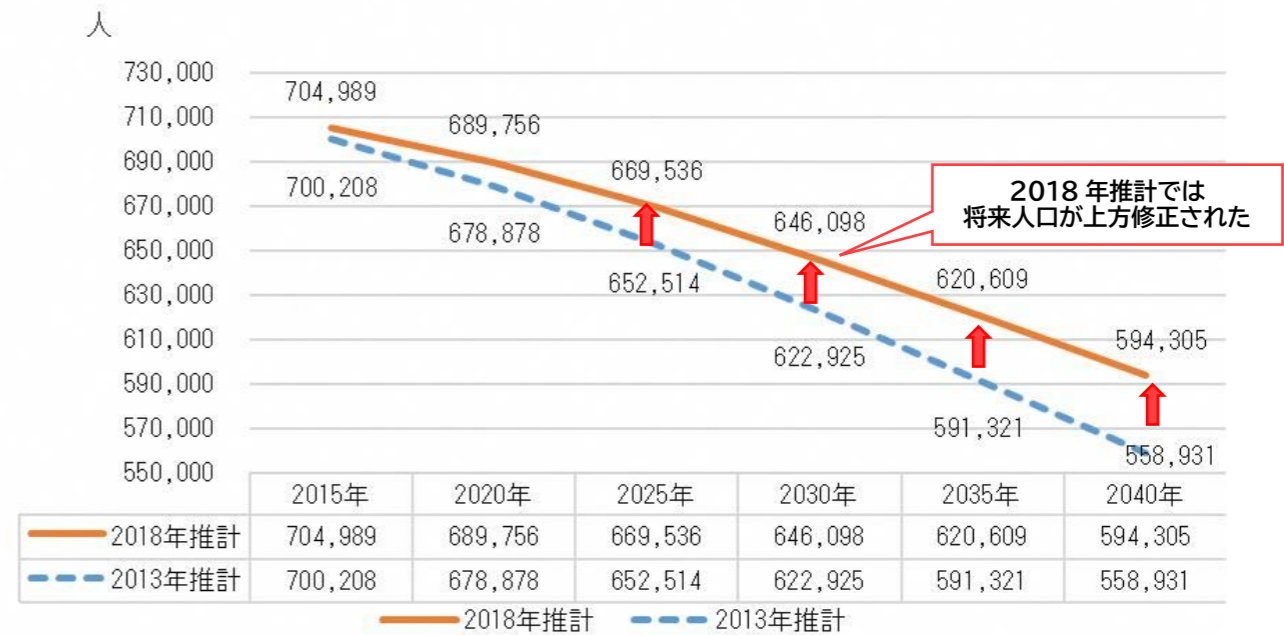
【出典】令和 2 年国勢調査（総務省）、日本の地域別将来人口推計（国立社会保障・人口問題研究所）

〔図 3 静岡市の自然増減・社会増減の推移〕



【出典】静岡市統計書

〔図 4 静岡市の将来人口推計の変化〕

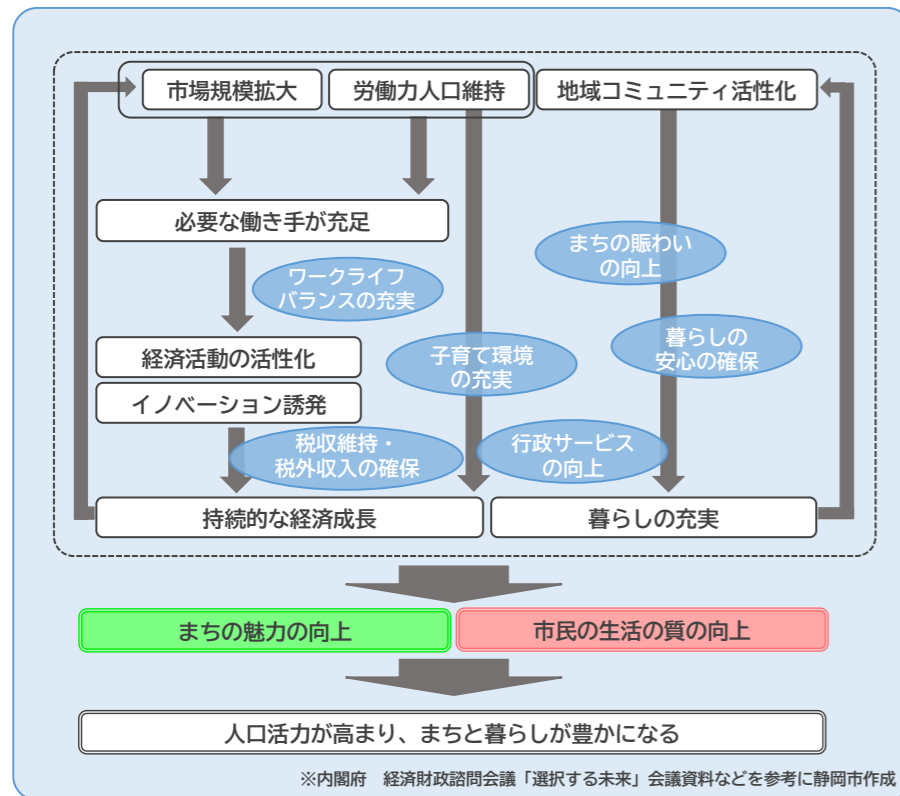


【出典】日本の地域別将来人口推計（国立社会保障・人口問題研究所）

(3) 重点目標 ～人口活力を高め、まちと暮らしを豊かにする～

3次総では、「2025年の総人口70万人維持」を目標に掲げ、取組を進めてきました。一方で、人口減少、少子高齢化の時代の中で「世界に輝く静岡」を実現するためには、都市活動の最も重要な基盤である定住人口の減少を最小限に抑えつつ、交流人口、関係人口の創出にも着目して取組を進め、持続的な経済成長と暮らしの充実を図っていくことが重要です。この考え方のもと、4次総の8年間の重点目標として、「人口活力を高め、まちと暮らしを豊かにする」ことを掲げ、「まちの魅力の向上」と「市民の生活の質の向上」の2つのテーマのもと、取り組んでいきます。また、成果を測るための指標を新たに設定します。

〔重点目標イメージ〕



※「人口活力を高め、まちと暮らしを豊かにする」考えは、「まち・ひと・しごと創生法」に基づく地方版総合戦略としての性格を併せ持つ

〔重点目標に設定する指標（案）〕

- ・ 市内総生産額（GDP）
 - ・ 市民一人当たり所得額
 - ・ 「質の高い生活が送れている」と感じる市民の割合 など
- ※複数の指標を組み合わせて測ることを想定しています。

(4) 横断的視点

基本構想の「4 目指す都市像の実現に向けた取組」において、経済、社会、環境に調和したまちづくりを進めていくことを述べました。

この考えのもと、4次総では、時代の潮流に対応し、国際社会の期待に応えていくために必要な3つの横断的視点を持ち、取組を進めていきます。

また、4次総に則して策定する各分野の計画にも、これらの視点を取り入れていきます。

①SDGsの推進

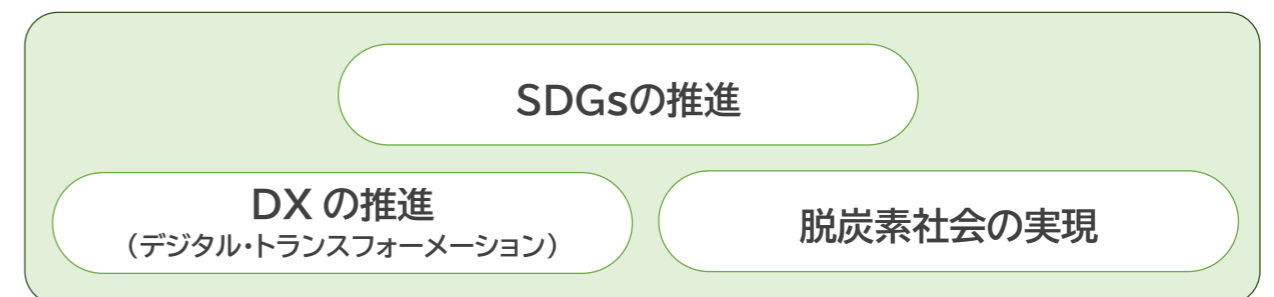
「SDGs未来都市」、そしてアジア地域で唯一の「SDGsハブ都市」として、世界における静岡市の存在感と求心力を高めていくため、4次総と同じ2030年を目標年次とするSDGsの考えを取り入れ、取組を進めていきます。

②DX（デジタル・トランスフォーメーション）の推進

本市の事業を推進する上で、デジタル技術の活用を意識するとともに、誰もがデジタル化による豊かさを享受できる地域社会の実現を目指して、取組を進めていきます。

③脱炭素社会の実現

地球環境の保全と地域経済の発展を両立させ、将来に渡り豊かな営みを続けていくことを目指し、2050年カーボンニュートラルの実現に向けて、取組を進めていきます。



(5) (仮)7つの柱

基本構想で述べたように、本市は、南アルプスや日本一の深さをもつ駿河湾といった豊かな自然を有しており、長い歴史において、先人たちにより多彩な文化が培われてきました。さらに、地域に根付いた大道芸や演劇・音楽などの芸術文化や、歴史文化や海洋文化など風格と個性のある地域資源にもあふれています。あわせて、温暖な気候や多彩な食資源に恵まれるなど、人々が健康的に安心して、いつまでも暮らし続けることができる環境を有しています。

3次総では、こうした「数多くの静岡らしい地域資源を輝かせることで、静岡都心、清水都心、草薙・東静岡副都心が世界から注目され、人々が集まるまち」と、「市民一人ひとりが輝いて自分らしい人生を謳歌できるまち」を目指す取組として、「5大構想」を掲げました。4次総では、時代の潮流や市民意識の変化などを踏まえ、持続的な経済成長と市民の暮らしの充実を一層強化していくため、新たにオクシズにおける「森林文化の地域づくり」、豊かな市民生活の土台となる「安全・安心のまちの推進」の2つを加え、「(仮)7つの柱」として重点的に取り組んでいきます。

歴史文化の地域づくり【静岡都心】

静岡都心では、これまで培ってきた都心としての機能の更新と、徳川氏、今川氏などの歴史資源の活用による経済の活性化を目指したまちづくりが求められています。

これまで、葵舟の運航や駿府ホリノテラスでの空間活用、東御門・巽櫓のリニューアル、静岡市歴史博物館の建設などを進めてきました。

4次総では、これまでの取組を発展させ、市民が静岡に誇りと愛着を持つとともに、徳川氏、今川氏を中心とした歴史資源を活用し、世界中から人が集まり駿府城公園周辺が賑わうことを目指し、取組を進めています。



海洋文化の地域づくり【清水都心】

清水港は駿府外港などの長い歴史を経て国際拠点港湾として発展し、地域の経済と生活に貢献することで、港を介して海に係る清水の海洋文化を育んできました。

これらの特色を活かしたまちづくりを進めるため、これまで、港湾整備や港のブランディング事業、客船による賑わい創出などを進めてきました。

4次総では、これまでの取組を発展させ、「駿河湾」や「清水港」を活かし、産業・研究・観光が生まれ高め合う「国際海洋文化都市」として、清水港周辺が賑わうことを目指し、取組を進めています。



まなびの文化の地域づくり【草薙・東静岡副都心】

静岡・清水2つの都心の中心に位置する草薙・東静岡地区には、常葉大学や静岡県立大学といった高等教育機関のほか、グランシップや多くの若者が訪れる「東静岡アート&スポーツ/ヒロバ」など、多様な“まなび”を経験できる地域資源が集積しています。

4次総では、この地域の特性を活かし、草薙・東静岡地区で、誰もが教育・スポーツ・芸術を体験できる機会を創出し、地域の賑わいを生み出すとともに、市全体の“まなび”をけん引する地域となることを目指し、取組を進めています。



森林文化の地域づくり【オクシズ】

静岡市の市域の約80%を占める中山間地域は、南アルプスをはじめとする豊かな自然と人の営みが共存した貴重な地域であり、「オクシズ」の呼称で市民に親しまれてきました。また、オクシズは、お茶やわさび、みかんなどの農作物や心身を癒す温泉、伝統芸能など多様な地域資源を有しています。

4次総では、それらの地域資源をさらに磨き上げるとともに、都市と山村が支え合い、地域資源循環を生み出す持続可能な中山間地域の実現を目指し、取組を進めています。



「まちは劇場」の推進

今の時代は、モノの豊かさから心の豊かさへと、人の価値観が変わりつつあります。そのような中で、静岡市には、人々の心を豊かにする大道芸、演劇、音楽などの文化が地域に根付いています。

4次総では、この静岡市に根付いた『文化』を通じて、人と人とのつながりによるシビックプライドの醸成や、QOL（生活の質）の向上、賑わいの創出を促します。

また、市民一人ひとりの人生にスポットが当たる舞台としてのまちづくりを進め、市民の心を豊かに満たすことを目指し、取組を進めています。



「健康長寿のまち」の推進

近年、高齢化が急速に進んでおり、一人暮らしの高齢者や、認知症患者の増加といった問題が深刻化しています。さらに、ライフスタイルや食習慣の変化により、生活習慣病などの疾病を抱える人が増加しています。

4次総では、世代を問わず、市民一人ひとりの健康に対する意識を高め、未来に向けて元気な市民を増やすとともに、健康で長生きするための切れ目のない支援が受けられる環境を整えることで、市民が住み慣れた地域で自分らしく暮らすことを目指し、取組を進めています。



「安全・安心のまち」の推進

近年、市民生活におけるリスクは多様化しています。世界的な気候変動に起因する甚大な自然災害、新型コロナウイルスなどの感染症の大流行から、子どもの貧困やいじめ、犯罪被害、差別、偏見など、近年社会的な課題となっているリスクに至るまで、様々なリスクを可能な限り回避し、低減していくためのまちづくりが求められています。

4次総では、市民の生命、財産、暮らしの安全性が保たれ、市民一人ひとりが将来にわたり安心感をもって生活することができる環境を目指し、取組を進めています。



(6) 分野別の取組

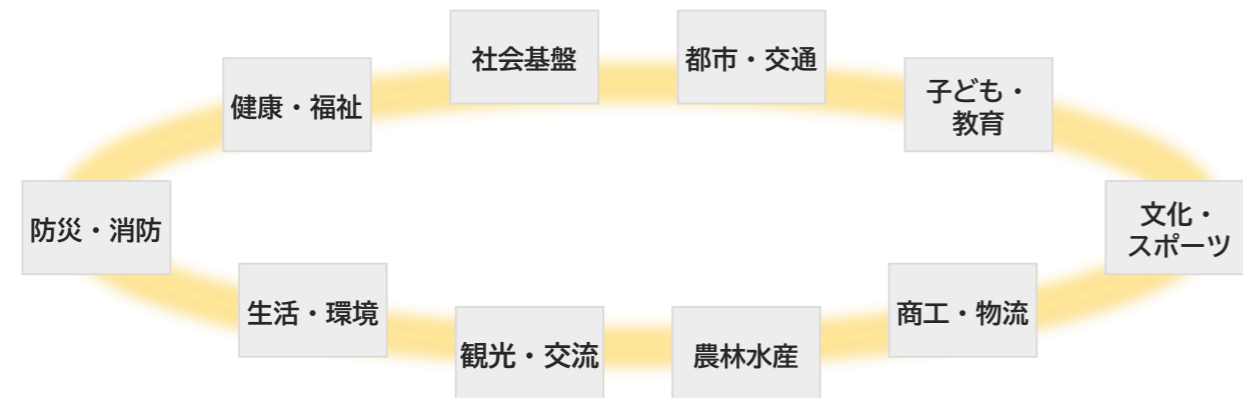
最後に、分野別の取組についてです。

「世界に輝く静岡」を実現するためには、重点的な政策である「(仮) 7つの柱」のみならず、市民の暮らし、事業者の経済活動、社会基盤整備などあらゆる分野に目を向け、多角的に取り組んでいく必要があります。

このため、基本計画において、10の「分野別の取組」を定め、4次総全体の下支えをしていきます。

あわせて、各分野の取組を推進するための基本認識として、「市民との協働」、「民間活力の導入」などの考えを持ち、取り組んでいきます。

〔10の分野別の取組〕



※10の分野は、3次総の考え方を継承しています。

※具体的な取組内容は、今後検討を進めていきます。

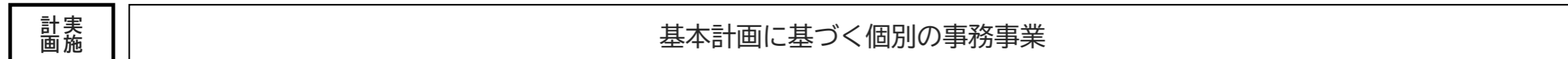
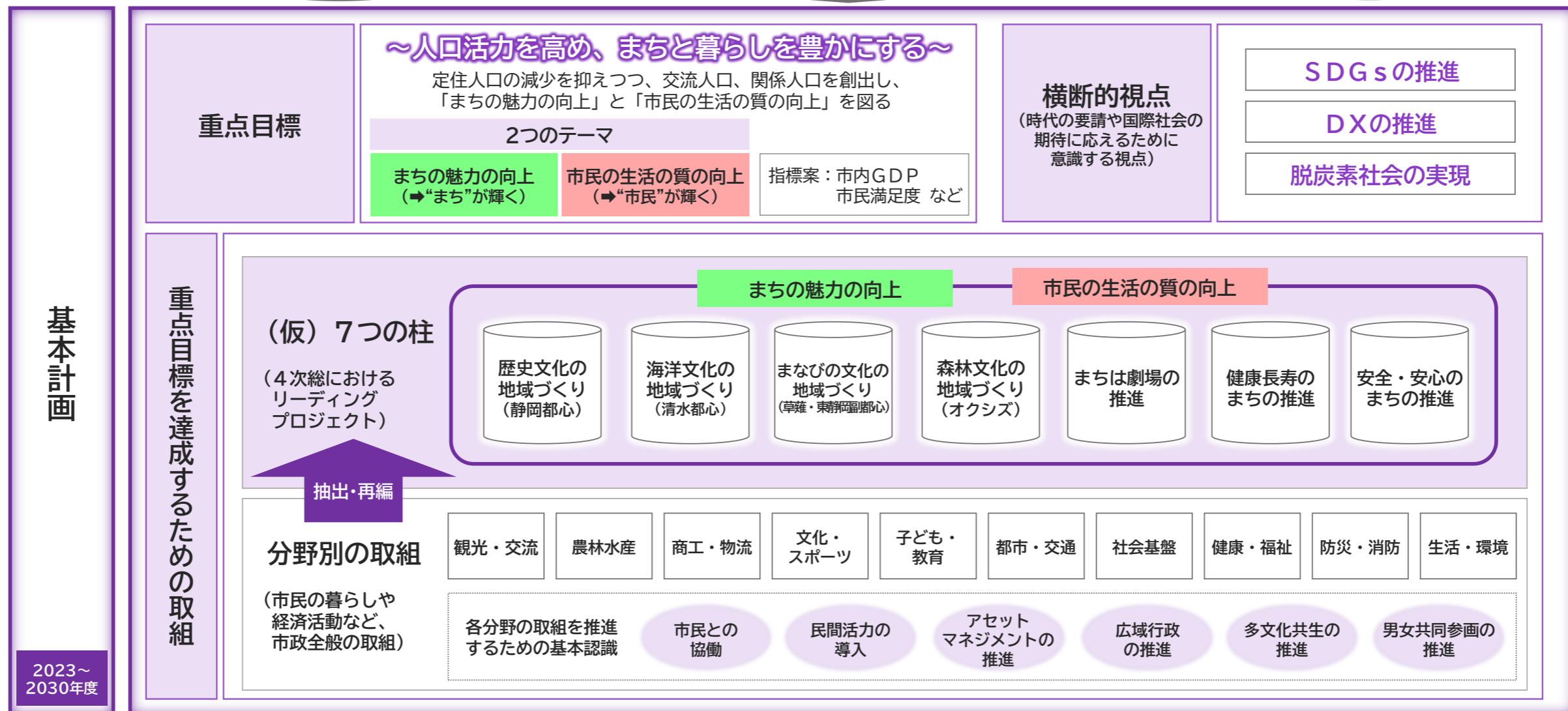
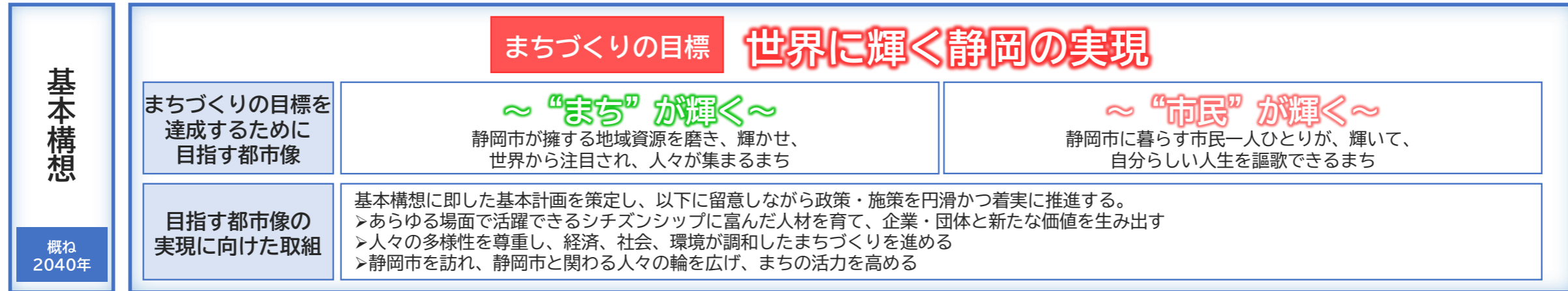
〔各分野の取組を推進するための基本認識〕

- ・ 市民との協働
- ・ 民間活力の導入
- ・ アセットマネジメントの推進
- ・ 広域行政の推進
- ・ 多文化共生の推進
- ・ 男女共同参画の推進



～2030年に向けた静岡市のまちづくりについて

ぜひ多くのご意見をお願いします～



参考 用語集

ページ	語句	意味
2	財政シミュレーション	今後の財政運営について長期的な視点で、将来の財政収支の傾向や財政的特徴を示すもの。
2	地方版総合戦略	まち・ひと・しごと創生法に基づき、国の「総合戦略」を勘案し、都道府県及び市町村において策定するよう努める将来にわたって「活力ある地域社会」の実現と、「東京圏への一極集中」の是正を共に目指す計画
2	(総合戦略)	①地方における安定的な雇用を創出する②地方への新しいひとの流れをつくる③若年者の結婚や出産、育児に関する希望を叶える④時代に合った地域をつくり、地域と地域を連携するという4つの方針を掲げる国の地方創生に関する戦略
2	(地方創生)	少子高齢化の進展に的確に対応し、人口の減少に歯止めをかけるとともに、東京圏への人口の過度の集中を是正し、それぞれの地域で住みよい環境を確保して、将来にわたって活力ある日本社会を維持していくことを目指すもの
3	Voice of しずおか	静岡市の住民基本台帳から無作為に抽出された市民に案内を送付し、申し込みをした参加者が、静岡市の様々な課題について話し合う討議会の場。
3	市長ミーティング室	市長自らが市内の企業、教育機関、市民団体の活動場所等を訪問し、意見等を聞くことで、「課題解決」や「新たな施策展開」に繋げる静岡市の取組。
5	CCRC	Continuing Care Retirement Community の略。高齢者が安心して健康で元気に暮らし続けることができ、多世代のための「担い手となる」ことを基本とする仕組みが整ったまちを指す。
5	健康寿命	平均寿命から寝たきりや認知症など介護状態の期間を差し引いた期間で WHO が提唱した新しい指標。
5	待機児童	保育の必要性が認定された子育て中の保護者が、保育所、学童保育施設等に入所申請をしているにもかかわらず、入所できず、入所待ちしている状態の児童。
6	シチズンシップ	市民性とも訳され、より良い社会の実現のために積極的に周囲と関わろうとする意欲や行動力のこと。
7	AI	人工知能 (Artificial Intelligence) の略。コンピュータが人間と同じように学習することで、独自発展を図ること。
7	IoT	モノのインターネット (Internet of Things) の略。自動車、家電、ロボット、施設などあらゆるモノがインターネットにつながり情報のやり取りをすることで、モノのデータ化やそれに基づく自動化等が進展し、付加価値を生み出す。
7	SDGs	持続可能な開発目標 (Sustainable Development Goals) の略。先進国・途上国すべての国を対象に、経済・社会・環境の3つのバランスがとれた社会を目指す世界共通の目標。

ページ	語句	意味
7	アセットマネジメント	計画的に公共施設の整備や維持管理を行い、施設の長寿命化や利活用促進、統廃合を進めることで将来の負担軽減を図り、健全な都市経営を維持する考え。
7	南海トラフ地震	駿河湾から日向灘沖にかけてのプレート境界を震源域として概ね100～150年間隔で繰り返し発生してきた大規模地震。前回の南海トラフ地震が発生してから70年以上が経過し、次の発生の切迫性が高まっている。
7	デジタル庁	DX (デジタル・トランスフォーメーション) の推進や、デジタル時代の官民のインフラの早期整備などを目指し、2021年9月に設置された省庁。
7	パリ協定	2015年にパリで開かれた、温室効果ガス削減に関する国際的取り決めに協議する「国連気候変動枠組条約締約国会議(通称COP)」で合意された2020年以降の気候変動問題に関する、国際的な枠組み。
8	人口フレーム	市町村などにおける将来人口の目標値や予測値を表したもの。
8	(人口の) 社会増減	人口動態に関する統計で、他都市からの転入及び転出による人口の増減
9	イノベーション	主に経済発展の一因としての技術革新のこと。モノ、サービス、ビジネスモデル等に新たな考えや技術を取り入れ、変革をもたらすもの。
9	ワークライフバランス	人生の各段階において、仕事や家庭、地域活動などのさまざまな活動について、自らの希望に沿う形でバランスが取れた状態。
9	SDGs ハブ都市	国連が選定する、SDGsの普及、達成に向け、世界の都市をリードし情報発信する役割を担う都市。本市は2018年7月、アジア初のSDGsハブ都市に選定。
9	SDGs 未来都市	SDGsの理念に沿った取組を推進する都市等から、特に経済・社会・環境の三側面における新しい価値創出を通して持続可能な開発を実現するポテンシャルが高い都市として、内閣府が選定した都市。
9	脱炭素社会	地球温暖化を防ぐため、再生可能エネルギー等を活用し、二酸化炭素など温暖化の原因の一つとされる温室効果ガスの人為的な排出量、吸収量の均衡が実現する社会。
9	DX (デジタル・トランスフォーメーション)	進化したデジタル技術を浸透させることで、人々の生活をより良いものへと変革させるという概念。
9	市内総生産額	1年間に市内で行われた各経済活動部門の生産活動(農業、製造業などのほか、卸売・小売業、金融・保険業などのサービス生産等を含む)によって新たに生み出された付加価値の額